

22. 「公民連携コミュニティ複合施設『隼Lab.』の運営支援及び事業者支援」

(鳥取銀行)

1. 取組の概要

- ・行政、民間、地域が一体となって運営する、廃校を活用した新たなまちづくりの拠点施設「隼Lab.」の運営会社及び入居企業者への支援を実施。中山間地域の課題解決や、新たな雇用、産業を創出する場づくりを行う。

2. 取組を始めるに至った経緯、動機等

- ・2015年策定の八頭町の総合戦略の企画・推進に地域金融機関として主体的に取り組む中、その重点事項である「八頭イノベーション・バレーの創設」において、廃校となる小学校を活用し、産業を生み、働きたい・住みたいまちにすることで、地方創生を実現しようというプランを民間各社と共に企画し、事業運営を行うまちづくり事業会社の設立準備委員会の委員長として関与。当行としては、地域のまちづくりへの取組の1つのモデル事業と位置付けるとともに、「隼Lab.」を中心とする事業者コミュニティの構築に取り組む。

3. 具体的な取組内容

- ・「隼Lab.」は、廃校をリノベーションし、カフェやショップ、シェアキッチンやワークショップルーム等のレンタルスペース、芝生のグラウンド等のパブリックスペース、多様な働き方が可能なワークスペースなどの様々な機能を持ち合わせたコミュニティ複合施設。
- ・事業者の誘致及び支援やイベント企画運営により、まちづくり拠点としての活性化を図る。
- ・当行は運営会社への出資や行員派遣(出向)等を通じて、起業家への金融支援、入居する事業者への多角的なサポートを提供、運営会社が行う経営スクール運営のサポートを実施。事業者が集い、雇用やこの地ならではの産業の創出に繋げていくと共に、新たなチャレンジが生まれることによる地域課題解決に取り組んでいく。

4. 実施にあたり工夫した点(金融機関の役割・推進体制面・PDCAサイクル面等)

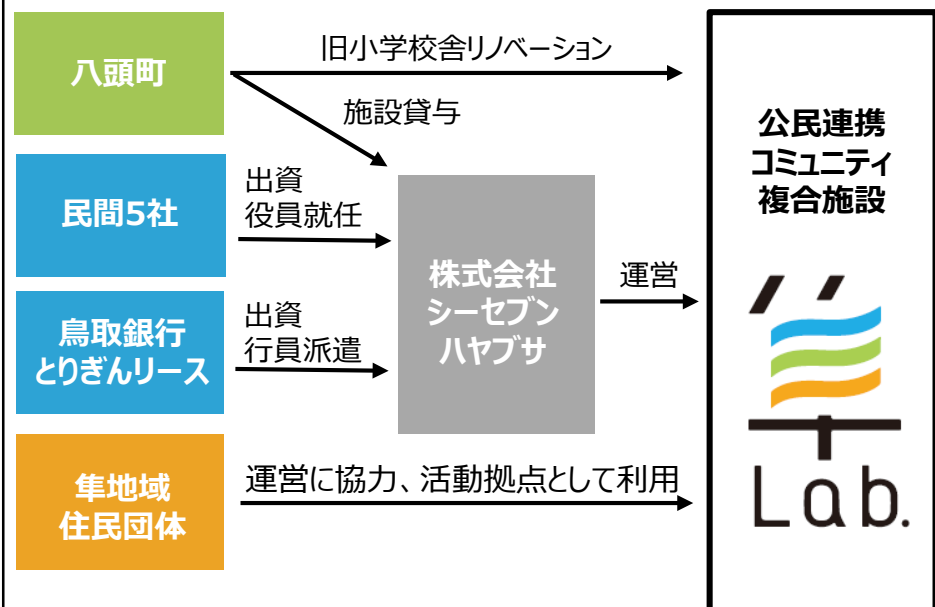
- ・施設のリノベーション資金は町が担い、運営会社(株)シーセブンハヤブサは行政からの出資を受けない形で設立し、完全民間で自走運営。
- ・ワークスペースだけでなく、カフェや交流スペース、地域福祉活動団体の拠点も設けるなど、地域の機能を集約し、様々な世代の人々が共存する枠組みを設計。
- ・当行は、融資ではなく出資を行い、行員派遣により積極的に参画し事業の推進力を強化。

5. 取組の成果(取組中の場合は目標値・KPI等)

- ・年間約40,000人が来場し、入居企業は14社でシェアオフィスは満室。施設内就業者は約60名。開設2期目で黒字化を達成している。
- ・2017年12月の拠点オープン以降、起業創業数は10件。経営スクールの開催等により事業者の集積及び事業者の成長支援の仕組み化を目指す。
- ・運営会社、行政、地域団体の三者が連携して運営を行い、様々な機能を集約し、世代を超えた人々が集う場所とすると共に、地域住民を巻き込みながら、中山間地域の高齢化に伴う問題や、地域の維持等の課題解決を目指していく。

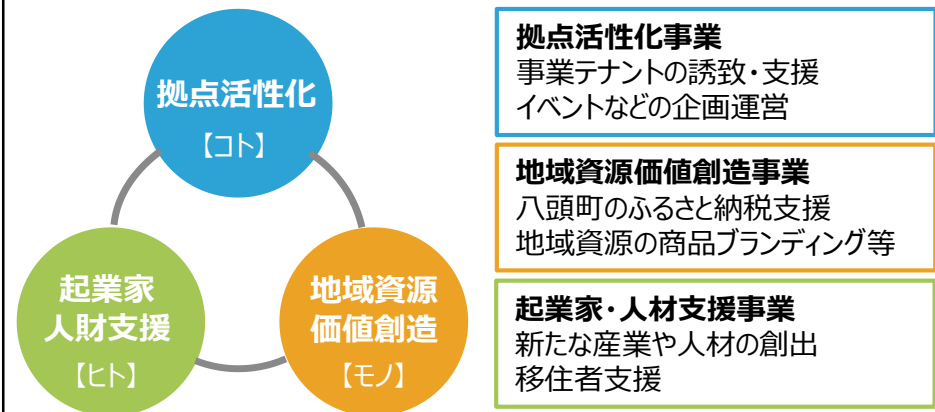
6. スキーム図等

【枠組みのデザイン】



【事業ドメイン】

地域課題の解決や新たな雇用産業を創出する場づくりを行う。
民間の活力を活用し、一過性ではなく、持続できる事業を目指す。



【取組状況】

- ①年間約40,000人が来場、施設内就業者約60名
つながりが生まれる「飲食」を核とし、様々なイベントやスクールを開催。
14社の入居企業と多様なコワーキングスペース利用者。
地域住民の交流拠点かつ、ビジネスの拠点として運営。



- ②起業創業10件（2017年12月～）、経営スクールの開講
運営会社の出資協力企業などによる金融、Web、デザイン等多方面からのサポートが可能。またそのリソースを活かして経営スクールを開催。
鳥取銀行も積極的に関与し、受講生のスクール卒業後の支援も行う。
事業者の集積、ワーキングコミュニティの拡大を目指す。



- ③移住定住支援、ふるさと納税支援等、町と共に取り組む事業
働く場所と住まいの情報をワンストップで提供できる強みや民間の情報発信力を活かした移住支援。ふるさと納税支援では、新たな発想での返礼品企画や情報発信で、町の魅力を外へ発信していく。

